

白骨の御文章

## 御文章

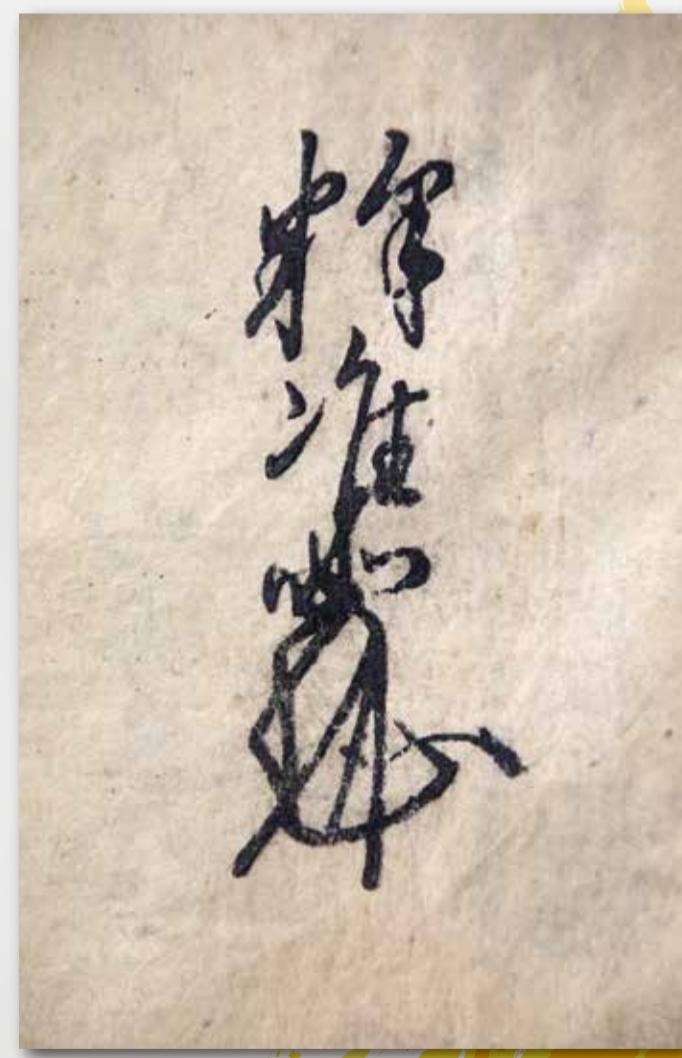
ご自宅で仏事が勤められた際の最後に、塗りの箱に納められた、和綴じの本を丁重に頂戴し拝読します。また、お寺の法座にお参りされた際には、ご法話を聴聞した最後に、布教使さんが拝読され、「あなかしこ あなかしこ」と本を閉じられる、この様な姿は浄土真宗の門徒にとって見慣れた光景かと思います。

本願寺第八代の蓮如上人がお書きになられた「御文章」(ごぶんしょう)は、親鸞聖人がお示し下さった阿弥陀様の教えを、平易に分かりやすく伝えるが為に、離れた各地に住む門信徒へと送られたお手紙です。その数は二百数十通も有ると言われています。蓮如上人が47歳の頃から、お亡くなりになる前年までの、37年間にわたり書き続けられました。「聖人一流章」「末代無智章」などは、良く耳にされていると思いますし、「あしたには紅顔あって ゆうべには白骨となる身なり」と、お葬儀の際に拝読される「白骨章」も有名かと思います。

「御文章」はお手紙と言っても個人と個人のやり取りと言う訳では無く、文字の読みない人が多かった当時に、「御文章」は門信徒の集まりの場で公開され、皆の前で朗読されました。このことによって、親鸞聖人のお示し下さった教えが、多くの方々に正しく伝わるとともに、本願寺教団は発展し、飛躍的に門徒数は拡大しました。

蓮如上人はこの員弁の地を歩き、布教されたとお聞きしています。蓮如上人

直筆のお名号が残されておられるご寺院が有り、その際に浄土真宗に改宗した寺院も多く有ったと聞きます。また、私たちがお参りの際に親しませて頂いている正信偈は、蓮如上人の時代に朝夕のお参りに読まれるようになりました(それまでは善導大師の六時礼讃が読まれていた)。日々のお参りの中に、蓮如上人のお念佛のみ教えをこの私にとどけたいと言う情熱・息吹を味合いたいものです。



裏書き (本願寺第12代宗主) 釋准如 花押

副主任 草薙善照 (照順寺)

撮影 広報部 松原大 (光明寺)